

高田援護室長の模型部屋(第2回)

皆さんこんにちは！4月も終わりに近づきつつありますが、進学や就職で新生活を始められた方々はいかがお過ごしでしょうか？私も新しい職務に戸惑いながらも毎日勉強(ほとんど教えてもらってますが…)しつつ業務を行っております。

私の娘たちも高校と中学にそれぞれ入学し、新たな生活を迎えました。勉強や部活と毎日学校での出来事を聞くのが楽しみです。いつまで聞かせてもらえるかわかりませんが(泣)

さて、今回紹介させていただく模型は…



キットはタミヤのドイツ88ミリ砲です。発売された当初は1500円と高価であり、箱も大きく、それゆえ憧れであったのを思い出すかつての模型少年の方もいると思います。その説明書の中に記述されていた逸話がありました。

北アフリカ戦線でイギリス機甲部隊と激戦を繰り広げていたドイツ軍は、それまで対戦車火力においてイギリス戦車に歯が立たなかったため、高射砲として使用していた88ミリ砲を対戦車砲として使用します。これが大当たりでイギリス戦車を次々に撃破します。捕虜にしたイギリス兵が「高射砲で戦車を撃つなんてフェアじゃありませんな。」というのと「88ミリ高射砲でなければ撃ち抜けない戦車をつかって攻め込むのはもっと卑怯だ！」と返すドイツ兵… そのやり取りに戦場のロマンを感じた模型少年たちがどれだけ多かったことでしょう。

このキットは昭和50年代に発売されたものですが、評判は現在でも高く、平成20年頃？にリニューアルされてアフリカ戦線の砲兵を新規に付属させて発売され、私もつい買ってしまい、しかもよせばいいのにジオラマにしてみました。



ジオラマにした後、収納することを考えるとそんなに大きなベースの上に作るわけにはいきません。少し小さめに切ったベニヤ板にラッカーズプレーを幾層にも吹き付け、その上にジオラマペーストを塗りつけて砂漠を表現。砂の上というより砂礫の上といったところでしょうか。地表面の凹凸をさらに明確にするため、ジオラマペーストが乾燥した後に薄めたアクリル塗料のレッドブラウンやグレーを表面から置くように塗りこみました。その上に88ミリと砲兵、そしてスペースが余ったのでケッテンクラートを置いてみました。



砲口の下は発射煙で黒くなるとともに、爆風で表面が吹き飛ぶので剥がれます。それらしく表現したのですが、どうかな・・・？ 演習場の無反動砲射場の爆風で剥がれた表面を参考に作ってみました。



キットはストレート組みで、特別なディテールアップはしてません。組み上げた後にタミヤアクリルカラーのダークイエローを吹き付け、エナメルのスミ入れ塗料で凹凸を明瞭にし、タミヤウェザリングスティックのダークアースとサンドをこすり付けて濡らした綿棒にて拭き取ります。



砲口と砲尾はスズで汚れるのでパステルコンテの黒を粉にして擦り付けました。砲尾の後座レールは鉛筆で塗り、金属管を表現しました。



防盾のキルマーク(撃破数の印)はデカールです。この撃墜・撃破数を見るだけでもこの砲の戦いぶりが目に浮かびます。防盾は88ミリ砲の顔にもなるのでこのようなアクセントで引き締まります。



砲兵はキットのままを使用しています。ドイツ人らしい顔つきで凛々しいです。顔の表面や肌はアクリルカラーのフラットフレッシュの上にタミヤエナメル塗料のクリアーオレンジとレッドブラウンを薄めたものでスミ入れしています。これだけでも顔の表情が出ます。



やはりフィギュアを置くことで88ミリ砲がさらにかっこよくなります。作りながら映画のワンシーンを彷彿とさせます。



長年作ってなかったケツテンクラートもこの場で登場していただきました。タミヤのキットのストレート組みです。置くことでジオラマ全体が狭くなっちゃうかなと思いましたが、いかがでしょうか？ジオラマはバランスが難しいですね。



このジオラマ、15年ぶりに作ったものです。建物とか植物もない地面だけですけど結構楽しめました。いつか手の込んだジオラマを作りたいですね。

さて、今回はここまで。また自己満足の世界にお付き合いくださいな。